

大樹70年のあゆみ



CLEAN&SAFETY

株式会社 大 樹

縁 感謝 安全 社是

CLEAN &
SAFETY

大樹

DAIKI

大樹

歴代社長



創業者(初代社長) 稲浪 秀晴
(昭和23年6月～昭和55年6月・32年間)



2代社長 稲浪 樹
(昭和55年6月～平成21年3月・29年間)



3代社長 稲浪 秀樹
(平成21年3月～現在)

発刊にあたって



株式会社 大樹
代表取締役社長 稲浪 秀樹

当社は昭和23年6月に創業し、平成30年6月に創立70周年を迎えました。
本年無事に70周年を迎えることができましたのも、ひとえにお客様、お取引先をはじめとする皆様方の温かいご支援、ご指導の賜物と深く感謝申し上げます。

社名である「大樹」の由来は、創業者である稲浪秀晴が、ことわざにある「寄らば大樹の陰」のように、大地に根を張り、何があっても決して揺らぐことのない大木のような存在になりたいという気持ちで命名されました。

当初は、当時、古紙などの資源回収を営む企業が少なかったことから、製紙原料商・富山紙料株式会社を設立したことから始まりましたが、昭和36年に蒲鉾の真空包装に取り組み、製袋加工をスタートさせました。

昭和38年には、千葉県松戸市に松戸支店・工場を東京より移転し、昭和55年には松戸支店・工場を新築しクリーンルームを設け軟包装衛生協議会認定工場として日本で4番目の認定を受け、業容を拡大していきました。

以来、食品包装用の製袋加工を中心にしながら、ラベル・シールの印刷、プラスチック製文房具の製造販売、フィルムのスリット加工等へと事業を拡大していきました。

近年では、整髪料の輸入・販売業務など、日用雑貨をはじめ多種多様の業務を行っております。

今日に至るまで、企画力、商品力は先人の社員から70年間引き継がれ、「CLEAN & SAFETY」のキャッチフレーズを掲げ、お客様へ安全で、安心できる商品をお届けいたしております。

70周年を機に全社員が心をひとつにして仕事に取り組めるよう「安全・感謝・縁」を社是として掲げました。70年という大きな節目を基盤に更に次代に向け新たな飛躍を目指し、果敢に挑戦していく所存でございます。

皆さまにおかれましては、なにとぞ、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、発刊のご挨拶とさせていただきます。

祝辞

様々な祝辞をいただきました。

目次

歴代社長

発刊にあたって

株式会社 大樹 代表取締役社長

稲浪 秀樹

祝 辞

祝 辞

祝 辞

Daiki Topic

1	昭和 23年 (1948)	高岡市成美町に富山紙料株式会社を設立	10
2	昭和 38年 (1963)	関東エリアへ進出 松戸に工場・支店開設	12
3	昭和 39年 (1964)	富山紙料株式会社から社名を株式会社大樹に変更	13
4	昭和 47年 (1972)	高岡市三女子に本社工場を新築・移転	14
5	昭和 55年 (1980)	稲浪樹、2代社長に就任 松戸工場を新築	16
6	昭和 57年 (1982)	文具部門へ進出	18
7	昭和 63年 (1988)	セルフラベル印刷機を導入	19
8	平成 3年 (1991)	高岡市から射水郡大門町へ本社工場を新築・移転	20
9	平成 10年 (1998)	創立50周年を迎え新ロゴマークを発表	22
10	平成 13年 (2001)	ISO9001:2000の認証取得	24
11	平成 15年 (2003)	七尾支店を新築・移転	25
12	平成 17年 (2005)	工業用フィルムのスリット加工増強 中国・東莞に事務所開設	26
13	平成 19年 (2007)	エコアクション21の認証・登録	27
14	平成 20年 (2008)	創立60周年を迎えスリット加工設備を増強	28
15	平成 21年 (2009)	稲浪秀樹、3代社長に就任	29
16	平成 22年 (2010)	中国で事業展開 広東省に現地法人を設立	30
17	平成 26年 (2014)	多様化する顧客ニーズに柔軟に対応した製品づくり	32
18	平成 28年 (2016)	品質管理を徹底 最新ラベル検品機を導入	33
19	平成 30年 (2018)	創立70周年を迎えて	34

創立70周年記念事業 北海道旅行	35
●70周年記念講演	35
●70周年記念祝賀会	36
●記念旅行スナップ	38

会社概要	40
------	----

現役員	41
-----	----

主要製品	42
------	----

スポーツ大会	44
--------	----

年 表	45
-----	----

昭和23年(1948)

高岡市成美町に 富山紙料株式会社を設立



創業地(高岡市京町)

当社は、創業者・稲浪秀晴が昭和23年6月1日、資本金1,000万円で富山県高岡市成美町(現・京町)2丁目23番地に設立した製紙原料商・富山紙料株式会社を前身とする。

当時、古紙などの資源回収業を営む企業が少なかったことから起業したもので、官庁や学校等から古紙を収集し、富山製紙(株)や高岡製紙(株)(現・中越パルプ工業(株))等に納品していた。創業当時の社員は、男性は主に収集・納品を行う三輪トラックの運転を、女性は和紙やダンボールなど収集物の分・選別作業を担っていた。



創業地に広がる緑の芝生はテニスコートで、稲浪秀晴が高岡庭球協会(現・高岡市テニス協会)会長時代の昭和47年(1972)に造成。テニスコート完成の折には、太平洋戦争後にインドネシアから帰国した方たちが作った「ジャガタラ*友の会」のメンバー十数名が同地に集い、対抗試合が行われた。

*ジャガタラ：インドネシアの首都ジャカルタの古称。



創業者(初代社長) 稲浪 秀晴

◆略歴(出生～富山紙料設立まで)

- 明治44年(1911) ● 中新川郡立山町若宮で農業を営む家の長男として生まれる
- 昭和 4年(1929) ● 富山県立富山商業学校卒業
- 貿易商・丸福洋行に入社。同年バタビヤ(現・ジャカルタ)に着任
- テニスが盛んなインドネシアでテニス始める
- 昭和16年(1941) ● 丸福洋行スマラン支店・ジャカルタ支店の支配人を経て南方事業所総支配人となる
- 和蘭官憲に非戦闘員捕虜として抑留され、オーストラリアへ移される
- 昭和17年(1942) ● 日英捕虜交渉で4,000人中800人だけ帰国を許され、その一人に選ばれ帰国の途へ
- 帰国途上、シンガポールで下船し、進んで旧勤務地・ジャカルタに帰還。第16軍総司令部軍属を拝命するが、2カ月で軍属解除。一般邦人にかえり、現地で丸福洋行に復帰
- 昭和19年(1944) ● 現地徴兵検査に合格・入隊
- 昭和20年(1945) ● 甲種幹部候補生として南方総軍下で教育訓練中に終戦を迎える
- 昭和21年(1946) ● 軍籍解除され、引揚者となる
- 丸福洋行の事業開拓に参画しつつ、大阪・丸福貿易株式会社の創立に奔走
- 昭和23年(1948) ● 丸福洋行・丸福貿易において南方貿易を復活させ、在勤19年で円満退社
- 富山県高岡市成美町2丁目23番地に資本金1,000万円で富山紙料株式会社を設立し、初代社長に就任(37歳)



前列右が稲浪秀晴、後列左が2代社長稲浪樹

昭和38年(1963)

関東エリアへ進出 松戸に工場・支店開設



富山紙料(株)東京工場 (松戸市松飛台)

稲浪秀晴は、古紙回収だけではやがて頭打ちになると考えていた。行く末を模索する中で再会したのが、商業学校の学友である東京ラミネート(株)の南氏と富山蒲鉾(株) (現・(株)梅かま) の支配人・奥井氏である。「食品をラミネートすれば日持ちがして遠方にも出荷できる」という南氏の指導のもとラミネート作業を開始。そして奥井氏と二人で蒲鉾を真空包装する研究を重ね、富山蒲鉾(株)は真空包装した蒲鉾の商品化に成功した。その蒲鉾は、板のない巻き上げ型の蒲鉾であった。

こうして当社は、昭和36年、本社工場に三方シール機などを導入し、本格的に包装資材部門へ進出。また翌年には、東京都大田区に東京工場を新設して関東エリアへの進出を果たした。さらに千葉県松戸市松飛台にあった松戸飛行場が都市計画によって工業専用地になることがわかり、飛行場跡地周辺の土地約300坪を購入し、昭和38年に東京工場を移転・新築した。



開設当時の工場内

昭和39年(1964)

富山紙料株式会社から 社名を株式会社大樹に変更



(株)大樹に社名変更後の徽章

古紙回収による製紙原料商として創業した当社は、包装資材業という新しい肩書きを手に入れた。本社工場では古紙回収を継続していたが、東京工場では包装資材のみを扱っていた。ポリエチレンなどの包装資材の取扱量が次第に増えていく中で、「紙料」という社名のままでよいのかと考えた稲浪秀晴は、社名変更を決意。そして、「プラスチック・フィルムの加工技術を幹に、大地に根を張り、何があっても決して揺らぐことのない大木のような存在になりたい」との願いを込めて、昭和39年、社名を富山紙料(株)から(株)大樹に変更した。

社名変更を機に、包装資材業へとシフトした当社は、カットシール機やスリッター機、自動製袋機などを相次いで増設、昭和41年当時の定時稼働能力は本社工場で1,000万袋/月、東京工場で2,000万袋/月となった。そして本社工場で続けていた古紙回収事業を社員に譲渡して独立させ、製袋業専業会社として再出発した。



(株)大樹に社名変更後の東京工場

昭和47年 (1972)

高岡市三女子に 本社工場を新築・移転



昭和47年に新築・移転した本社工場（写真手前の道路は旧国道8号）

昭和47年（1972）2月、高岡市三女子に本社工場を新築・移転した。高岡市三女子は一級河川の庄川左岸に位置し、本社工場を同川を跨ぐ国道8号（現・県道44号富山高岡線）が通る高岡大橋詰めに置いた。

富山名産の蒲鉾の真空包装をきっかけにさまざまな包装資材を手掛けるようになった当社は、「安全と清潔を売る包装の専門家」「包装の大樹」として設備の充実を図り、包装資材と加工技術の開発に挑んだ。



本社工場竣工祝賀会（昭和47年2月）

大ダイキ樹は
安全と清潔を売る包装の専門家
高岡大橋詰 ☎23-3355

昭和50年代半ばの広告

●高岡市三女子の本社工場時代の社内



高岡市三女子時代の本社工場のユニフォーム

COLUMN

創業者稲浪秀晴とテニス

稲浪秀晴がテニスと出会ったのは大正13年（1924）、富山商業学校1年生の時、富山薬専（後に富山医科薬科大学、現・富山大学）で行われた当時の日本のテニス界最高峰といわれた鳥羽・熊谷両雄による模範試合を見たのが最初である。その後、インドネシアで実際にテニスをするようになった稲浪秀晴は、自宅や社屋屋上にテニスコートを造り、同好の方々とは約20年余、テニスを楽しんだ。

また、高岡市テニス協会会長や富山県テニス協会会長、北信越テニス協会会長を歴任し、昭和62年（1987）には、富山市で開催されたデビスカップ東洋ゾーン2回戦「香港対日本」の大会副委員長を務めている。テニスの振興だけでなく選手の育成にも尽力した。なお、高岡市テニス協会主催大会として「稲浪杯」「大樹杯」が現在も毎年開催されている。



昭和55年(1980)

稲浪樹、2代社長に就任 松戸工場を新築



稲浪樹2代社長(左)と会長に就任した稲浪秀晴創業社長(右)(平成3年撮影)

包装される商品も包装する資材も多種多様となったことから、試験室や品質管理室を設置するなど、組織的な品質管理体制の強化を図る一方、昭和49年には松戸工場に大型自動製袋機を導入して大型袋の製造を開始した。「包装の大樹」として順調に事業を拡大してきた当社にとって、昭和55年は節目の年となった。

まず同年6月2日、創業以来当社の経営基盤の安定・拡大に取り組んできた稲浪秀晴創業社長が取締役会長に就き、代表取締役東京支店長の次男・稲浪樹が代表取締役社長に就任し、社業の一層の飛躍を目指すこととなった。

さらに、手狭になった松戸工場隣接地を購入し、さらなる発展を期し同年7月に松戸工場を新設、同時に東京支店を併設した。同工場は翌年、クリーンルーム(クラス100,000)を設置し、軟包装衛生協議会の認定工場(第004号)に指定されている。



2代社長
稲浪 樹

◆略歴

- 昭和16年(1941) ● 11月29日生まれ
- 昭和35年(1960) ● 高校卒業後当社に入社
- 昭和49年(1974) ● 2月24日、取締役就任(32歳)
- 昭和52年(1977) ● 2月27日、代表取締役東京支店長就任(35歳)
- 昭和55年(1980) ● 6月2日、代表取締役社長に就任(38歳)



新築した松戸支店・工場



屋上のテニスコート



工場内(大型製袋機)



工場内(三方シール自動製袋機)

COLUMN

軟包装衛生協議会認定工場の認定取得(第004号)

昭和55年に新築した松戸工場は、最新鋭の設備と品質管理体制を採用した工場として新設した。その衛生的な軟包装材料の製造・加工体制が評価され、翌年軟包装衛生協議会の認定工場制度の認定を取得した。認定番号は第004号。この認定工場制度は、同協議会会員工場において衛生管理自主基準に基づく衛生管理が正しく行われているかを定期的に診断・検証するもので、昭和56年より実施されている。認定を受けた工場は、自社工場の認定番号を表記した「認定標識」と「認可証」が与えられる。



認定工場認可証(第004号)



認定標識

昭和57年 (1982) 文具部門へ進出



当社で開発販売した文具関連商品

2代社長に就任した稲浪樹は、これまで培った軟包装材料の製造技術やノウハウを活かして多角化戦略を打ち出した。その第1弾となったのが、昭和57年の文具部門への進出である。

きっかけは、稲浪樹がヨーロッパ視察の際に展示会で目にした加工機械であった。新規事業の立ち上げとなると、準備に時間がかかるものだが、これまで蓄積してきた製袋の生産・加工技術を応用して展開できるところに着目。松戸工場に、昭和57年1月にPPホルダー加工機を、同年4月にクイックファイル製造機を相次いで導入した当社は、文具の製造を開始した。

昭和60年には本社工場に、エンボスフィルム加工機とサイドウェルダ―自動製袋機を導入し、エンボスフィルムポケット文具加工を開始した。さらに翌年には、自動製袋機を増設し、文具加工部門を本社工場に統合。昭和62年には、本社工場にビクトリア打抜機や超音波ウェルダ―などのシール加工機を相次いで導入し、文房具のアイテム強化を図った。



PPホルダー加工機



クイックファイル製造機

昭和63年 (1988) セルフラベル印刷機を導入



当社で印刷した製品ラベル

当社が得意とする軟包装資材は、その多くが食品や医薬品であり、「口に入るもの」という共通点がある。安全性や清潔が求められるのは当然であるが、内容物によってサイズが違えば、スペックも異なる。また、酸素や紫外線の遮断性や耐久性、加工性、印刷特性なども求められる。取引先が増え、アイテムが増えれば多品種小ロット対応や低コストが、受注の重要な要因となってくる。そのような状況下で「同じ包装のまま、ラベルを貼り替えるだけで対応できる商品があるのではないか」との考えから取り組んだのが、セルフラベル印刷である。

当社は昭和60年代に入ると、協力工場内にラベル印刷機を置いて、低コスト販促ツールとして取引先に提案を開始した。市場に参入すると、コストダウン効果だけでなく、デザイン室によるメニューや使用法の提案といった「付加価値」を生む新たな消費者サービスになることが分かった。そこで、当社は昭和63年9月、本社工場にラベル印刷機を導入。翌年にも2機増設し、さらに平成2年にはラベル用製版システム一式も導入した。このラベル印刷部門への進出は、顧客満足度の向上だけでなく、当社の競争力を高めることにもつながった。



ラベル印刷機を導入

平成3年 (1991)

高岡市から射水郡大門町へ 本社工場を新築・移転



大門本社工場外観 (平成3年3月竣工)



軟包装衛生協議会認定 認定標識
工場認可証 (第107号)

当社は、プラスチック・フィルムの製袋加工専門メーカーとして事業の多角化を進める一方、安全で高品質の製品を安定供給するべく万全の品質管理体制を整えた工場・設備の新設・増設を図ってきた。昭和47年の高岡市三女子への本社工場移転から19年、松戸に軟包装衛生協議会認定工場を新設して11年が経った平成3年3月28日、当社は、射水郡大門町（現・射水市）で開発された大門町企業団地に新本社工場を建設した。

新本社工場は、県道9号戸出小矢部線に面した工業団地の南東に位置し、敷地面積約9,900㎡、総建坪約3,630㎡。同工場には、松戸工場同様にクリーンルーム（クラス100,000）を設置し、原料・資材の仕入れから包装、出荷に至る工程全体を組織的に管理する体制を整え製袋事業、文具事業、ラベル印刷事業を展開した。さらに、同年には松戸工場に続いて軟包装衛生協議会認定工場（第107号）に指定されている。



本社工場竣工式



本社工場竣工記念写真



本社事務所



エアシャワー



三方製袋機

●事業の多角化 日用品雑貨部門へ (平成3年～6年)



花を包む「フラワーポット」(平成3年)



不織布
「水切ゴミ袋」
(平成4年)



日用雑貨製品第1号ポリ手袋「てだすくん」(平成4年)



部屋の中で泳がす風船
「ウッキー」(平成5年)



抗菌「CSホルダー」(平成6年)

COLUMN

大門企業団地

当社が本社を置く大門企業団地は、昭和55年3月策定の「高岡射水モデル定住圏計画」、昭和58年5月策定の「富山テクノポリス開発構想」に基づき建設された。同団地には、資源活用型から都市型工業へと変貌する射水市大門エリアの中核的役割を担う異業種企業19社が立地している（平成30年9月現在）。

運営する大門企業団地協同組合では、企画総務・環境整備活性化・BCPなどの委員会を組織して各種事業・行事を実施。会員企業相互の親睦を図る研修や旅行、球技大会などが毎年開催されている。



大門企業団地球技大会

平成10年 (1998)

創立50周年を迎え 新ロゴマークを発表



創立50周年記念祝賀会

昭和23年に富山紙料(株)を創業してから半世紀、平成10年6月、当社は創立50周年の節目を迎えた。古紙回収業として創業した当社は、50年の年月を経て射水市、松戸市、七尾市に3拠点を構え、軟包装資材、文具、日用雑貨などに事業を拡大。ラベル印刷を開始後は多色刷印刷機、シルク印刷機も導入するなど顧客満足度の向上に努め、プラスチック・フィルムの専門メーカーとして確固たる地位を得るに至った。

同年6月5日、和倉温泉ホテルたな嘉 花舞季において創立50周年記念式典・祝賀会を開催した。来賓、取引先、社員など176名が出席した式典で挨拶に立った稲浪樹代表取締役社長は、「70年、100年に向けて、さらに発展していきたい」と述べた。また、50周年を機に制定した新しいロゴマークも発表された。



創立50周年記念式典



全社員にロゴマークの公募をし、16名から68点の提出があり、喜多進氏の作品が採用となった。

[新ロゴマークコンセプト]

- ・DAIKIのDの頭文字をスマートに表現しました。
- ・Dの真ん中の横線は、大樹が地域と業界の中核に存在することと、社員を含めた和を意味しています。

会社概要 (平成10年6月現在)

社名：株式会社大樹
 資本金：4,000万円
 従業員数：90人
 所在地：(富山本社・工場) 富山県射水郡大門町布目沢201 (松戸支店・工場) 千葉県松戸市松飛台255 (七尾営業所) 石川県七尾市佐味町ハ-12



エコPRホルダー
 ペットボトルリサイクル文具などのリサイクル製品やエコマーク認定製品、植物由来の生分解性プラスチック文具などにも取り組んだ。

COLUMN

中国に駐在員事務所を開設

当社は、昭和57年に多角化戦略の一環として文具部門への進出を果たした。以来、多くの製品を開発・納入してきたが、国内生産では価格的に厳しい状況となったことから平成11年、中国・深圳市に駐在員事務所を置き、プラスチック文房具の製造を委託し輸入を開始した。



駐在員事務所 (中国・深圳)

平成13年 (2001)

ISO9001:2000の 認証取得



ISO9001:2000認証登録
証(登録番号MIC00350)



品質方針(平成28年1月1日制定)

ISOキックオフ大会

本社・松戸の両工場では、防虫対策、塵埃対策の整ったクリーンルームを設置し、製品の品質向上に取り組んできた。こうした活動・姿勢が評価され、両工場とも軟包装衛生協議会の認定工場となっている。

しかし事業の多角化に伴って製品アイテムが増え、顧客満足度をさらに向上させるためには、個人によって品質が左右されるのではなく、全社員が共有できる効果的な品質マネジメントシステムを構築することが必要である。そこで社員各人の責任と権限を明確にして全社的な衛生管理体制をとるために、平成12年10月、ISO9001国際規格取得を目指しキックオフ大会を開催。社員一丸となって取り組んだ結果、翌年10月、「包装資材、ラベルおよび文房具の設計、製造および販売」におけるISO9001:2000年版認証取得を果たした。

その後製品のさらなる品質向上を目指し、万全の品質管理体制で製品を製造するために、平成28年1月1日に「品質方針」を改定し、以後毎年1月にその年の品質目標を掲げ、社員全員が目標達成に取り組んでいる。

COLUMN

ファッション分野へ参入 「マジックパット」発売(平成14年)

これまで培ってきた軟質フィルムの技術を応用して、女性のバストアップ用パット「マジックパット」を開発・発売した。市販されているパットと違うところは、ゴム弾性を有する薄いエラストマーフィルムを用いて空気で膨らませる点。空気量の調節によりボリュームを自由にコントロールできるため、一人ひとりの体形や要望に応えられるのが特長である。



マジックパット

平成15年 (2003)

七尾支店を新築・移転



七尾支店外観(左上)と七尾支店竣工式

能登地区ではこれまで、平成元年に石川県内の運送会社の倉庫を借り受け七尾営業所として地元食品加工メーカーなどに包装資材を納めてきた。しかし、老朽化が進み、手狭となってきたことから、七尾市西三階町丙19-1に新築・移転することとなった。新支店は、国道159号線や能登有料道路に近く、本社工場から1時間半ほどで商品供給が可能な立地となっている。敷地面積1,374㎡、建築面積627.73㎡の一部2階建てで、1階には事務所のほか倉庫機能を備え150パレットのラックスペースを設置した。

平成15年8月8日、新築・移転した七尾支店内で竣工祝賀会を開催した。地元企業などから20数名が参加した祝賀会で挨拶に立った稲浪樹社長は「社員一同心も新たに『誠意と責任ある営業活動』をモットーとして、今まで以上にサービスに万全を期し精一杯努力いたす所存です」と述べた。

COLUMN

意外性で話題を呼んだノベルティ2種

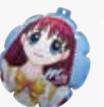
平成15年10月、東京で開催されたイベント会場で試験的に置いた2種類のノベルティが、その意外性から好評を博し、同年12月から製造を開始した。

「ドローイングマーカー アーラ」は、インクを染み込ませた7cm四方の布をフィルムシートに入れたシート状のマーカーである。



アーラ

「パフーン」は、キャラクターなどが印刷された袋に空気を入れて膨らませ、握ると描かれたキャラクターの表情がデフォルメされるアクセサリで、携帯電話や車などのキーにストラップとして付けることができる。



パフーン

平成17年 (2005)

工業用フィルムのスリット加工増強 中国・東莞に事務所開設



中国東莞事務所開設

食品の包装だけでなく、携帯電話などの電子機器製造工程でも表面保護や帯電防止、防水などのためにさまざまなフィルムが使われている。これらのフィルムは「工業用フィルム」と呼ばれる。当社は平成12年にクリーンルーム（クラス10,000）を設置、スリット加工を開始し、平成17年、松戸工場に最新鋭のスリッター機を導入。翌年には、北陸という立地とその将来性から、本社工場にもクリーンルーム（クラス10,000）を設置、スリッター機を導入し、北陸で初めて工業用フィルムスリット加工を行う拠点を置いた。

また平成17年5月、中国広東省・東莞に事務所を開設した。東莞は、広州・深圳・香港の間に位置する工業製品の製造拠点都市として知られる。平成11年、中国・深圳に事務所を開設しているが、今回の東莞進出は、中国でフィルム原紙を販売するための足掛かりとする狙いがあった。

こうして平成17年は、フィルム加工技術で電子・医療分野の開拓、中国という巨大マーケットでのフィルム原紙販売という2つの挑戦を開始した年となった。



工業用フィルム用スリッター機

中国・東莞事務所の様子

平成19年 (2007)

エコアクション21の 認証・登録



エコアクション21認証・登録証 (0001969)



EA21環境方針

21世紀は「環境の世紀」と言われるとおり、地球温暖化などの「地球規模での環境問題」の解決や「大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から循環型社会へ」の転換など、課題が山積している。

当社は、平成19年10月、地球温暖化対策の取り組みとして財団法人 地球環境戦略研究機関持続性センターが実施する「エコアクション21」の認証・登録を受けた。これは、環境への取り組みを効率的かつ効果的に行うためのシステムを構築して積極的にCO2削減を推進するものである。当社は平成18年10月に「EA21環境方針」を制定し、1年間の準備期間を経て、平成19年より実施。認証・登録は、本社だけでなく、松戸支店・工場、七尾支店でも取得している。

また当社は、富山県が推進する10の環境行動に賛同し、社員一人ひとりが「とやまエコライフ・アクト10宣言」の宣言者となった。

平成29年10月には、一般財団法人持続性推進機構より認証更新を受けるとともに、長年の取り組みに対して感謝状を受けている。



エコアクション21感謝状

平成20年(2008)

創立60周年を迎え スリット加工設備を増強

平成20年6月、当社は創立60周年を迎えた。古紙回収・製紙原料商として創業した当社は、その後食品向け製袋分野に進出、さらに事業の多角化を図って文房具など各種包装資材に事業を展開してきた。平成17年から増強に取り組んでいる工業用フィルムのスリット加工は、北陸で初めての生産拠点として各方面から高い評価を得ることとなった。

当社が加工する工業用フィルムは主に電子機器の生産ラインで使われる。その電子機器は年々小型化、薄型化、軽量化の方向に向かっており「そのニーズに応えられるのは軽く、薄く、強度のあるフィルムである」と考え、創立60周年を機に、益々需要が見込める工業用フィルム加工事業を、食品向け製袋業品や包装用資材に次ぐ第三の柱と位置づけ、工業用フィルムのスリット加工設備増強のため、最新鋭の加工機を1台増設。また、生産・出荷を一貫で行うため本社工場内に鉄骨平屋建てで敷地面積は約550㎡の第2倉庫を建設した。



第2倉庫



平成20年に増設したスリッター機

平成21年(2009)

稲浪秀樹、3代社長に就任



稲浪樹2代社長(中央)と稲浪秀樹3代社長(左)

日本経済は、平成19年10月頃をピークに緩やかな景気回復傾向から景気後退局面に入っていた。さらにサブプライム住宅ローン問題を端緒とするアメリカの金融不安は、平成20年9月のリーマン・ショックを契機に、世界的な金融危機へと拡大していった。こうした厳しい市場環境の中、当社は平成21年3月6日、稲浪樹社長が会長に、稲浪秀樹副社長が3代社長に就く新体制をスタートさせた。

就任にあたり稲浪秀樹新社長は「先行き不透明な経済情勢で企業の成長戦略が描きにくい状況ですが、軟包装加工事業を軸に底上げを図り、多様化・複雑化するマーケットニーズに柔軟かつ迅速に対応することで成長への道筋を築きたい」と述べた。

3代社長
稲浪 秀樹

◆略歴

- 昭和44年(1969) ● 12月18日生まれ
- 平成4年(1992) ● 3月27日、大学卒業後当社に入社
- 平成7年(1995) ● 12月、取締役経営企画室長就任(26歳)
- 平成9年(1997) ● 1月、取締役総務部長就任(27歳)
- 平成14年(2002) ● 1月、常務取締役就任(32歳)
- 平成17年(2005) ● 4月、取締役副社長就任(35歳)
- 平成21年(2009) ● 3月、代表取締役社長就任(39歳)

平成22年(2010)

中国で事業展開 広東省に現地法人を設立



八光大樹貿易(深圳)有限公司

平成22年5月、当社は中国のフィルム包装事業者向けにプラスチックフィルムを販売するため、広東省に八光大樹貿易(深圳)有限公司を設立した。

当社と中国とのつながりは平成6年頃に始まるが、今回の現地法人設立は中国という巨大なマーケットで事業展開する初めてのケース。平成11年に深圳に駐在員事務所を置いてプラスチック文房具の製造を委託し輸入を開始しているが、同17年にフィルム原紙の販売を念頭において市場調査・市場開拓のため東莞に事務所を置いてから5年、ようやく事業の目途が立ったため現地法人を設立するに至ったものである。

設立後は、深圳および東莞の事務所と連携して、文房具の輸出、フィルム原紙の販売を開始。平成23年には、富山県が進める広東省販路開拓支援事業の一環で県内から11社が参加した国際見本市に八光大樹貿易(深圳)有限公司として出展し、販路の拡大を図った。



現地スタッフ



八光大樹事務所スタッフルーム



八光大樹事務所検品作業室



八光大樹事務所検品作業室



八光大樹事務所品質管理室



文具OEM工場 建鈦塑膠制品廠

COLUMN

国際見本市に出展 (平成23年11月16～19日、広東省東莞)

中国市場に参入した当社および八光大樹貿易(深圳)有限公司は、平成23年11月16日から4日間、広東省東莞で開催された国際見本市「第13回東莞国際金型及び金属加工展」および「第13回東莞国際プラスチック及び包装展」(DMP2011)に出展した。展示ブースでは、事業内容や製本紹介などをパネル展示したほか、内容物を実際に包装容器につめたサンプルも陳列。同見本市には4日間で10万人近くが訪れ、現地企業との交流、製品や技術の売り込みを行う絶好の機会となった。



展示ブースの様子



展示会リーフレット

平成26年(2014)

多様化する顧客ニーズに柔軟に対応した製品づくり



本社工場H2スリッター機

第三の柱と位置づけた工業用フィルム部門は、半世紀以上にわたり培ってきた技術と経験を活かした製品づくりが評価され、堅調に推移。平成26年7月、本社工場にスリッター機を増設するなど生産設備の増強を図った。

また、高品質な製品づくりで市場を開拓してきたが、ユーザーからは技術力だけでなく、デザインなども含めたきめ細かな提案力を求められることも多くなった。そこで多様化する顧客ニーズに柔軟に対応し、総合的な提案を行える環境整備の一環としてデザイン部門の強化を図った。固定概念にとらわれない柔軟かつ斬新な発想でデザイン提案を行えるように若手社員を積極的に登用し、新製品開発委員会を設置。北陸新幹線開業に合わせて制作したオリジナル製品のクリアホルダーやノートなどを企画・デザインした。



クリアホルダー&ノート

平成28年(2016)

品質管理を徹底 最新ラベル検品機を導入



ラベル検品機

当社が製造する製袋品およびラベル印刷品の9割近くは食品関連である。「CLEAN&SAFETY」をモットーに品質管理を徹底してきた当社は、平成27年にISO 9001：2015年版更新に合わせて、これまで以上に全社的な意識の共有を徹底し、異物混入など不良品混入の撲滅のため検品体制の強化を図ることとした。

平成28年、製袋機の更新に加え、最新のラベル検品機の導入など、設備投資を相次いで実施した。中でも同年9月に導入したラベル検品機は、高性能カメラを搭載し、100～150m/分の速度で検査を行い、0.03mmの不具合箇所を検知できる。この検品機の導入により、作業効率もアップ、短納期受注にも迅速に対応できるようになった。さらに、従業員教育も充実させるため日常業務のOJTに加え、独自の「品質方針」「検品10カ条」を掲げて品質管理を徹底。入社1～2年の若手社員への技能の継承にも力を入れている。



ラベル検品機

平成30年(2018)

創立70周年を迎えて



創立70周年記念祝賀会で挨拶に立つ稲浪秀樹社長

平成30年1月、当社はフィルムの断面に開封しやすい加工を施す機能を備えたスリッター機を導入した。老朽化したスリッター機更新に合わせたもので、開封用の切れ込みは1mm程度。これまでも同種の製品は製造していたが、オフラインであった。今回の新型機の導入によってオンラインで作業できるようになり、裁断と巻き取りスピードが上がり、生産能力も大幅にアップした。

平成30年6月、創立70周年の節目を迎えた。70周年記念事業として、北海道旅行を実施。会場は星野リゾート トマム ザ・タワーで、旭川市旭山動物園の小菅正夫名誉園長の記念講演に続いて、祝賀会を開催した。挨拶に立った稲浪秀樹社長は新たに作った社是を発表され、さらなる飛躍を全社員が誓った。



易開封加工をオンラインで行う最新スリッター機

会社概要

社名 株式会社 大樹

代表者 代表取締役社長 稲浪 秀樹

設立年月日 昭和23年6月1日

所在地 富山本社・工場 〒939-0418 富山県射水市布目沢201番地
Phone : 0766-53-1331 Fax : 0766-53-1330

松戸支店・工場 〒270-2214 千葉県松戸市松飛台255番地
Phone : 047-384-7791 Fax : 047-384-7796

七尾支店 〒926-0835 石川県七尾市西三階町丙19-1
Phone : 0767-57-0800 Fax : 0767-57-0801



富山本社・工場



松戸支店・工場



七尾支店

営業品目 包装フィルムの設計、企画、デザイン
包装資材の販売
包装システムの設計、企画、販売
フィルムのスリッター加工
プラスチック製文房具用品の企画、
製造販売
ラベル・シールの設計、企画、製造
販売

資本金 4,000万円

年間売上高 33億円

従業員数 100名

工場敷地 17,600㎡

建物延床面積 8,200㎡

機械設備 包材製袋機 15台
スリッター機 12台
ラベル・シール印刷機 5台
その他関連機 20台

主要取引銀行 北陸銀行
富山銀行
富山第一銀行
みずほ銀行
千葉銀行
日本政策金融公庫
商工組合中央金庫

決算期 12月

関連企業 株式会社コクタイ
八光大樹貿易（深圳）有限公司

現役員



代表取締役社長
稲浪 秀樹



代表取締役副社長
喜多 進



常務取締役
山田 昌文



取締役
松戸支店製造部次長
日下 享



取締役
本社営業部長兼七尾支店長
南 亘

主要製品

●包装資材 (製袋)



●ラベル・シール



●包装資材 (ロール)



●文房具



●包装資材



●雑貨



スポーツ大会

【テニス】

平成 3年	富山県実業団対抗(B)大会	準優勝
平成 6年	富山県実業団対抗(A)大会	準優勝
平成11年	富山県実業団対抗(B)大会	3位
平成13年	富山県実業団対抗(B)大会	3位
平成14年	富山県実業団対抗(B)大会	3位
平成15年	富山県実業団対抗(A)大会	準優勝
	富山県実業団対抗(B)大会	3位
平成16年	富山県実業団対抗(A)大会	準優勝
平成17年	富山県実業団対抗(A)大会	優勝
	富山県実業団対抗(B)大会	3位
平成18年	富山県実業団対抗(A)大会	準優勝
	富山県実業団対抗(B)大会	3位

【ボウリング】

平成 9年	富山県プラスチック工業会	個人優勝 (新田)
平成11年	北広会	個人準優勝 (久々湊)
平成14年	北広会	個人優勝 (喜多)
平成15年	富山県プラスチック工業会	個人3位 (新田)
平成16年	北広会	個人女子3位 (久々湊)
平成26年	大門企業団地	優勝 (B チーム)
平成28年	大門企業団地	3位

【ソフトボール】

平成14年	大門町企業団地	優勝
-------	---------	----

【松戸支店野球部】

平成12年	松飛台工業会野球大会	準優勝
-------	------------	-----



【ビーチボール】

平成 4年	大門町企業団地	3位
平成 5年	大門町商工会	準優勝 (男子)
	大門町企業団地	優勝
平成 6年	大門町商工会	優勝 (男子)、準優勝 (女子)
	大門町企業団地	優勝
平成 7年	大門町体	準優勝 (男子)、優勝 (女子)
	大門町商工会	準優勝 (女子)
	大門町企業団地	3位
平成 8年	大門町商工会	3位 (男子)、優勝 (女子)
	大門町企業団地	優勝
平成 9年	大門町体	準優勝 (男子)、準優勝 (女子)
	大門町商工会	3位 (男子)、3位 (女子)
平成10年	大門町体	準優勝 (女子)
	大門町商工会	準優勝 (男子)、3位 (女子)
平成11年	大門町体	準優勝 (男子)、準優勝 (女子)
平成12年	大門町体	準優勝 (女子)
	大門町企業団地	優勝
平成13年	大門町体	優勝 (女子)
平成14年	大門町体	準優勝 (男子A)、3位 (男子B)
		優勝 (女子)
平成15年	大門町体	準優勝 (男女ミックス)
	大門町企業団地	優勝
平成16年	大門町体	準優勝 (男女ミックス)
	大門町企業団地	3位 (B チーム)
		3位 (C チーム)
平成17年	大門町体	優勝 (男女ミックスA)
		準優勝 (男女ミックスB)
平成18年	大門町体	3位 (男子)



年表

和暦	西暦	月	日	当社の出来事	月	日	一	般
明治44年	1911年	1	11	稲浪秀晴 (創業者・初代社長) 誕生				
昭和4年	1929年	3		- 稲浪秀晴、貿易商社に入社、ジャカルタ勤務となる	10	24	ニューヨーク市場が大暴落し、世界恐慌始まる	
昭和16年	1941年	12		- 稲浪秀晴、非戦闘員捕虜として抑留され、オーストラリアに移される	12	8	太平洋戦争勃発	
昭和17年	1942年	8		- 稲浪秀晴、日英非戦闘員交換によりジャカルタに帰還	1		- 学徒動員始まる	
		10		- 稲浪秀晴、第16軍総司令部軍属を拝命	4	18	米軍が、東京・名古屋・神戸を空襲 (日本への初空襲)	
		12		- 稲浪秀晴、軍属解除	8	4	学童の集団疎開始まる	
昭和19年	1944年	10		- 稲浪秀晴、徴兵検査に合格・入隊	8	15	日本、ポツダム宣言を受諾。太平洋戦争終結	
昭和20年	1945年	8	15	稲浪秀晴、南方総軍下で教育訓練中に終戦を迎える	1	1	天皇、人間宣言	
昭和21年	1946年	5		- 稲浪秀晴、軍籍解除され引揚者となる	12	10	国連総会で世界人権宣言採択	
昭和23年	1948年	3		- 貿易商社を円満退社	12	18	GHQが経済安定9原則を発表	
		6	1	富山紙料株式会社設立 所在地：富山県高岡市成美町2丁目23番地 資本金：1千万円 製紙原料業 (古紙回収業) を営む				
昭和36年	1961年	4		- 東京ラミネート(株)から製袋加工の指導を受ける	4	12	ソ連、世界初の有人宇宙飛行に成功	
		6		- 本社工場に三方シール機、スリッター機、胴張機を導入	8	13	東ドイツ、ベルリンの壁築く	
				- 食品包装部門に進出				
昭和37年	1962年	2		- 東京都大田区に東京工場を新設 (三方シール機を2機導入)	10	22	キューバ危機	
				関東エリアの包装部門に進出			- この年、テレビの受信契約数1,000万台を超える	
		12		- 東京都大田区大森に包装部門の営業所として東京支店を新設				
昭和38年	1963年	3		- 本社工場に三方シール機、胴張機を増設	1		- 北陸地方で記録的豪雪 (38豪雪)	
		8		- 千葉県松戸市松飛台に松戸支店を新設、東京工場を移転	11	22	ケネディ米大統領暗殺	
昭和39年	1964年	1		- 製袋業を専業として株式会社大樹に社名変更	10	10	東京で夏季オリンピック大会開幕	
昭和40年	1965年	5	15	松戸工場にカットシール機を2機増設	2	7	米国、北ベトナムへの爆撃開始	
昭和41年	1966年	3	5	松戸工場にカットシール機4機やスリッターなどを増設	3		- 日本の人口1億人を突破	
		19		松戸工場に自動製袋機を増設			- この年、いざなぎ景気始まる	
昭和42年	1967年	3	31	松戸工場に自動製袋機を増設	8	3	公害対策基本法公布	
		9	29	松戸工場にカットシール機を4機増設				
		11		- 11月東京都中央区築地に東京支店を開設し、営業を強化				
昭和43年	1968年	9	10	松戸工場にガゼット背張機を2機増設	6	26	小笠原諸島返還	
昭和44年	1969年	3	5	松戸工場に自動製袋機を3機増設	1	18	東大安田講堂事件	
		5	7	本社工場に自動製袋機を増設	7	20	アポロ11号、月面着陸に成功	
昭和45年	1970年	11	30	松戸工場に自動製袋機を2機増設	3	15	大阪で日本万国博覧会開幕	
昭和46年	1971年	10	31	本社工場に自動製袋機を2機増設	8	15	ニクソン米大統領、ドル防衛政策発表	
昭和47年	1972年	2		- 本社工場を高岡市三女子に新築移転	2	3	札幌で冬季オリンピック大会開幕	
		7	10	本社工場に自動製袋機を増設	9	29	日中共同声明調印、日中国交回復	
昭和49年	1974年	8	10	松戸工場に大型自動製袋機を導入し大型袋の製造を開始			- 経済成長、戦後初のマイナス	
昭和50年	1975年	3	19	本社工場に自動製袋機を増設	4	30	サイゴン陥落、ベトナム戦争終結	
		5		- 本社工場に品質管理室を新設	7	20	沖縄国際海洋博覧会開幕	
		10	31	本社工場に自動製袋機、スリッターを増設	11	15	第1回先進国首脳会議開催 (ランブイエ)	
昭和51年	1976年	12	31	松戸工場に自動製袋機を増設	2	4	ロッキード事件表面化	
昭和52年	1977年	2	27	稲浪 樹、代表取締役東京支店長に就任	9	3	王選手 (巨人) 756本塁打、世界最高記録樹立	
		9	22	松戸工場に自動製袋機を増設			- 日本の平均寿命が世界1位になる	

和暦	西暦	月	日	当社の出来事	月	日	一般
昭和53年	1978年	4	24	松戸工場に自動製袋機を4機増設	5	20	新東京国際空港（成田空港）開港
		6	30	本社工場に自動製袋機を増設	8	12	日中平和友好条約調印
昭和55年	1980年	6	2	稲浪秀晴、取締役会長に就任 稲浪 樹、代表取締役社長に就任	9	-	イラン・イラク戦争勃発
		7	-	千葉県松戸市松飛台に松戸工場を新設 東京支店を松戸工場に併設			
昭和56年	1981年	5	-	稲浪秀晴、市民功労賞受賞	3	20	神戸ポートアイランド博覧会（ポートピア'81）開幕
		5	-	松戸工場にクリーンルーム（クラス100,000）設置			
		7	-	軟包装衛生協議会認定工場に認定（登録番号004）			
昭和57年	1982年	1	27	松戸工場に文具、PPホルダー加工機を導入	4	-	500円硬貨発行
		4	12	松戸工場にクイックファイル製造機を導入 文房具部門に進出	11	15	上越新幹線、大宮―新潟間開業
昭和58年	1983年	9	10	本社工場に自動製袋機を増設	4	15	東京ディズニーランド開園
昭和60年	1985年	9	19	本社工場にエンボスフィルム加工機、サイドウェルダ― 自動製袋機を導入 エンボスフィルムポケット文具加工を開始	3	16	国際科学技術博覧会（科学万博一つくば'85）開幕
昭和61年	1986年	5	14	本社工場に自動製袋機を増設	4	26	ソ連、チェルノブイリ原子力発電所で 大爆発事故発生
		9	13	松戸工場にスリッターリワインダーを導入しスリッ ター加工部門に進出 文具加工部門を本社工場に統合			
昭和62年	1987年	12	24	本社工場にビクトリア打抜機、シール加工機を導入 文房具のアイテムを強化	4	1	国鉄分割民営化、JR6社発足
		6	-	松戸工場にスリッターリワインダーを増設	10	19	ニューヨーク株式市場で株価大暴落（ブ ラックマンデー）
昭和63年	1988年	4	8	本社工場にサイドウェルダ―自動製袋機を増設	3	13	世界最長の青函トンネル開業
		7	14	松戸工場にスリッターリワインダーを増設	4	10	瀬戸大橋開通
		9	14	松戸工場を増築し、自動製袋機を2機増設 本社工場にラベル印刷機を導入しラベル印刷部門に進 出	6	-	日米、牛肉・オレンジ自由化交渉決着
平成元年	1989年	2	10	本社工場にサイドウェルダ―自動製袋機を増設	1	7	天皇崩御、新元号を平成に決定
		7	26	本社工場にラベル印刷機を2機増設 - 七尾営業所を開設	4	1	消費税3%実施
平成2年	1990年	7	17	本社工場にラベル用製版システム一式を導入	10	3	東西ドイツ統一
平成3年	1991年	3	28	本社工場新築移転 所在地：射水郡大門町目沢201（大門町企業団地） 本社工場にクリーンルーム（クラス100,000）設置	6	3	長崎普賢岳で火砕流発生
		4	26	軟包装衛生協議会認定工場に認定（登録番号107） PPホルダー加工機、ラベル印刷機2機を増設 松戸工場に高速大型製袋機を導入	12	26	ソ連消滅、独立国家共同体を創設
平成4年	1992年	3	19	本社工場にサイドウェルダ―製袋機を増設	6	3	ブラジル・リオデジャネイロで地球サ ミット開幕
		5	-	日用雑貨に進出 製品第一号となる使い捨て手袋「てだすけくん」発売 - 日用雑貨製品・流し台用水切り袋「ゴミばっくん」発 売 - 「フライング・フィッシュ」（魚の形のバルーン）製作			
平成5年	1993年	-	-	エアースイマー「ウッキー」（羽ばたき室内機）発売	8	9	非自民党の細川護熙連立内閣発足
平成6年	1994年	-	-	業務用耐退変色防止樹脂製品2種「Dパック」「Yパック」 発売 - 抗菌性セラミック（ゼオライト）混入のプラスチック ホルダーを商品化	6	28	松本サリン事件発生
					9	4	関西国際空港開港、日本初の24時間稼 働
平成7年	1995年	4	10	松戸工場にスリッターリワインダーを増設	1	17	阪神・淡路大震災発生
		10	16	シルク印刷機を2機導入し、シルク印刷部門に進出	3	20	地下鉄サリン事件発生
平成8年	1996年	1	23	本社工場にPPホルダー加工機を増設	7	20	大阪・堺で大腸菌O-157による集団食 中毒発生
平成9年	1997年	5	12	本社工場に六色ラベル印刷機を増設	4	1	消費税5%へ引き上げ
平成10年	1998年	6	5	創立50周年記念式典・祝賀会を開催（和倉温泉） 新ロゴマーク発表	2	7	長野で冬季オリンピック大会開幕
平成11年	1999年	5	28	松戸支店、事務所改修工事・倉庫改修工事 倉庫に移動ラック導入 - 生分解性プラスチックの商品化 - 中国・深圳に駐在員事務所を開設	1	1	欧州統一通貨ユーロ使用開始
					8	9	日の丸・君が代を国旗・国歌とする法 律公布

和暦	西暦	月	日	当社の出来事	月	日	一般
平成12年	2000年	-	-	松戸工場にクリーンルーム（クラス10,000）設置、工 業用フィルム部門に進出			
平成13年	2001年	6	15	本社工場に自動製袋機を増設	9	11	米国ニューヨークなどで同時多発テロ 発生
		10	24	ISO9001:2000認証取得（登録番号MIC00350） - 生分解性プラスチックファイル開発	9	22	千葉県で日本初のBSE（牛海綿状脳症） 感染が確認される - この年、インターネット・ブロードバ ンド化が急速に進む
平成14年	2002年	9	25	松戸工場にコロナ処理機を導入 - 「マジックパット」発売	4	1	学習指導要領改訂され、「ゆとり教育」 がスタート
					5	31	サッカー W杯日韓大会開幕
平成15年	2003年	5	14	稲浪秀晴（創業者・初代社長）死去 享年92歳	4	-	新型肝炎（SARS）が世界的に流行
		7	11	私募債発行	7	26	イラク復興支援特措法が成立、自衛隊 派遣へ
		8	8	七尾営業所を新築移転し、七尾支店に改称 所在地：石川県七尾市西三階町丙19-1	12	24	米国でBSE牛が発見され、同国産牛肉の 輸入停止
平成17年	2005年	4	1	稲浪秀樹、取締役副社長に就任	2	16	地球温暖化防止のための「京都議定書」 発効
		5	-	中国・東莞に事務所開設	4	1	個人情報保護法施行
					4	1	ペイオフ解禁
平成18年	2006年	9	29	本社工場にクリーンルーム（クラス10,000）設置、工 業用フィルム部門に進出 - 工業用スリット事業開始	5	1	北朝鮮ミサイル発射、日本海に着弾
平成19年	2007年	6	-	経営革新承認	2	-	社会保険庁で公的年金の加入記録不備 が発覚（5,000万件） - この年、食品偽装事件相次ぐ
		10	30	エコアクション21認証取得（登録番号0001969）			
平成20年	2008年	4	10	本社工場にスリッター機を増設	4	1	後期高齢者医療制度スタート
		6	11	創立60周年	9	15	米国リーマンブラザーズが経営破綻、 リーマンショックの引き金に
		6	19	本社工場に第2倉庫新築	5	21	裁判員制度スタート
平成21年	2009年	3	6	稲浪 樹、取締役会長に就任 稲浪秀樹、代表取締役社長に就任			
平成22年	2010年	5	-	中国・深圳に現地法人「八光大樹貿易（深圳）有限公司」 設立	10	16	尖閣諸島沖で中国漁船衝突、中国国内 で数万人の反日デモ
平成23年	2011年	11	16	第13回東莞国際金型および金属加工展示会（兼）第13 回東莞国際プラスチックおよび包装展示会に出展（～ 19日まで、中国・広東省東莞）	3	11	東北地方太平洋沖地震（東日本大震災） 発生（M9.0）
平成24年	2012年	8	-	千葉県千漣にてスリット事業開始	5	22	東京スカイツリー開業
		12	-	本社照明・空調システムを刷新し省エネ化	9	-	政府、尖閣諸島を購入・国有化
平成25年	2013年	9	-	BCP（事業継続計画）制定	6	26	富士山、ユネスコの世界文化遺産に登 録
					9	7	2020年夏季オリンピック大会開催地が 東京に決定
平成26年	2014年	4	21	稲浪樹（2代社長）死去 享年73歳	3	7	あべのハルカス（高層ビルとしては日 本一の高さ）開業
		7	-	本社工場にセンタードライブスリッター機1台を増設	4	1	消費税8%へ引き上げ
		9	-	本社工場、北陸新幹線開業記念クリアホルダー制作・ 販売	8	-	各地で記録的集中豪雨発生
平成27年	2015年	7	-	北陸新幹線開業記念ノート制作・販売	3	14	北陸新幹線、高崎―金沢間開業
平成28年	2016年	7	-	松戸支店がREUZELより化粧品等輸入開始	3	26	北海道新幹線、新青森―新函館有斗間 開業
		9	12	本社工場にラベル検品機を導入	4	1	電力の小売全面自由化
		11	-	千漣のスリット事業終了	6	19	18歳選挙権を実現する改正公職選挙法 施行
				- 「品質方針」「検品10カ条」制定			
平成29年	2017年	4	26	ISO9001：2015認証更新	1	20	ドナルド・トランプ米大統領就任
平成30年	2018年	2	13	食品包装用Dカット付スリッター機導入	6	12	米朝首脳会談
		6	22	創立70周年 北海道・星野リゾートトマムザ・タワーにて祝賀会開催 稲浪秀樹社長より社是の発表	6	18	大阪北部地震発生

編集後記

昭和23年の創立から70周年を迎えるにあたり、当社のこれまでの歴史を記録した記念史を刊行することになりました。創立50周年を含め、いちども記念史を刊行していないということもあり、資料収集には大変苦労いたしました。

特に、創業当時の写真が建物を含めて一枚もないことや、資料不足により、掘り下げた取材ができないことが多々ありました。それでも、できるだけ写真を多く活用の上、全体として読みやすく、親しみやすい構成を心掛けました。

また、後半の部分には、創立70周年記念社員旅行の中に記念行事として取り入れた、70周年記念講演、記念祝賀会の様子を取りまとめ、写真を中心に掲載しました。

編纂にあたっては、限られたスタッフの中での作業であったため、内容的に不十分な点が多々ありますが、ご容赦を賜りたいと思います。

作業を進めていくに従い、どの出来事も、先人の先輩社員の方々や、取引先、金融機関をはじめとする関係各位のお陰であると気づきました。そして敬意を表し、これからの私たちの考えや行動の指針になれば幸いです。

終わりに、年史編纂にあたり、寄稿いただきました関係各位および委員として取り組んでくれた社員に、深く感謝申し上げます。

平成30年11月
創立70年史編集委員会
委員長 喜多 進

編集委員

喜多 進 明神 毅 新田 智宏
柴田 康之 川田 純子

大樹70年のあゆみ

平成30年12月7日 発行

発行 株式会社 大樹
富山県射水市布目沢201番地

編集 創立70年史編集委員会

制作 有限会社 青青編集
